

令和6年度 墨田区立業平小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 伊藤 康次

学校教育目標	◎進んで学ぶ子【重点】 ○やさしい子 ○元気な子
目指す学校像	■子供たちが自らの誇りにできる学校 ■教職員が誇りをもって働くことができる学校 ■保護者・地域が誇りにすることができる学校
目指す児童像	・他者に認められ、支えられ、安心して通うことができる。 ・自分のよさや可能性に気づき、生き生きと自信をもって発揮することができる。 ・困難にも負けない、チャレンジする気持ちを持ち続けることができる。
目指す教師像	・研究と研修を土台にして、教育者としての自信と意欲をもつ。 ・自らを律し、使命感と組織の一員として協働しながら目的の実現をめざす。 ・常に互いに敬意と感謝、立場を尊重し合い、自己のライフスタイルの充実をめざす。

○令和6年度 学校経営計画における重点内容  
令和6年度短期目標「主体性」・「協働性」・「新たな価値」を生む教育の推進

**①「子供」を主語にする教育**  
子供の学びの姿、成長、変容を見取り、理解を深め、互いに共有していくことを大切に、子供自らが問いをもち、追究し、考え、表現し、さらに問いを更新していくことができる教育活動を推進する。

**②「子供」一人一人を認め、寄り添う教育**  
特別に支援が必要な子供や不登校、登校しぶり、学級不適応、不安、ストレスなど個々の心の状態を肯定的に受け止め、全教職員で共有し、一貫した支援体制の一層の充実を図る。

**③「温かい厳しさ」のある教育**  
いじめをしない、させない、許さない、見逃さない。学校のきまり、ルールやマナーを全教職員でぶれることなく指導し、厳しさの中に温かみのある教育を徹底する。子供たちを認め、励ましていながら、困難にも折れることのない「しなやかな強さ（回復力・レジリエンス）」と自己肯定感を養う。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
各教科指導等	子供一人一人の興味・関心、思いや願い、問題意識等を大切にしたい学びの充実	児童の学びの姿を想定した授業づくりを行い、児童が自らの考えを伝え合い、練り上げることができる授業を推進する。	4年7回の公開研究授業実践及び自主的公開研究授業	3	4 児童アンケート「考えを広げる」10%超上昇	3	4年：84.1%→89.3% 5年：84.5%→84.9% 6年：80.6%→96.3% 3学年平均で、7.2%上昇。 4年及び6年は校内で研究授業を実施。研究の成果があらわれている。	次年度は、教育委員会「特色ある学校づくり」の研究奨励を受ける予定である。5年生「進んで考えを伝える」61.6%で課題である。小グループでの対話を重視した授業を創る。	B	A	5年生は研究授業を実施できなかったのか。取組は素晴らしい。新しい取組でよい。小グループの対話重視はよい。	
	3 7回実施	3 概ね10%										
	2 6回実施	2 変化なし										
1 5回以下	1 マイナス評価											
各教科指導等	タブレット等を活用しながら、一人一人の学習の定着状況や学び方特性に基づく指導の確実な実施	毎時間、単元末など計画的に学習アプリを活用し、基礎的、基本的な学習内容の確実な定着を図る。	4 毎時間実施	3	4 6年算数D・E層20%未満	2	6年算数学力下位層（D・E層）が25.3%。D層のうち上位層の指導の充実を図ることで、17.2%まで学力の向上が見込まれる。年度末までに個別の指導を徹底し、基礎の定着を図る。	前年度の学力調査の結果を新担任が分析し、個別指導が必要な児童を把握する。ミライシードなどのドリルアプリを活用し、ドリルとミニテストを繰り返して定着を図る。	B	A	「あともう少し」の実現に期待。改善方策の効果を期待する。一元的ではなく個別指導は必要。	
	3 概ね毎時間実施	3 現状と変化無し										
	2 単元内で複数回実施	2 微増（概ね25%程度）										
	1 単元末のみを中心に実施	1 D・E層増加（25%超）										
各教科指導等	探究する価値のある「問い」をもち、問い続け、「問い」を更新していく学びや多様な他者と関わる力を高める学びの推進	地域素材や地域の特色を生かした協働的・探究的な学習を推進する。	4 「地域素材を生かした授業を推進した」100%	4	4 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答95%	3	4年：82.9%→92.0% 5年：79.7%→86.3% 6年：88.6%→97.5% 3学年平均91.9%。2年生生活科10軒以上のお店の協力、3年生では、墨田区のものづくりを教材化。	開校110周年に向けて、地域を素材とした学習の充実、6年間を見通した地域学習を通して育てたい力を検討、協議し、探究的な学びを積み上げていく。	A	A	先生から教えてもらうだけでなく自ら調べることがよい。地域の特色など調べてください。	
	3 「地域素材を生かした授業を推進した」90%	3 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答90%										
	2 「地域素材を生かした授業を推進した」80%	2 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答80%										
	1 「地域素材を生かした授業を推進した」80%未満	1 児童アンケート「問いをもつ」肯定的回答80%未満										
生活指導等	特別な支援を必要とする子供に対して情報の共有、支援の方向性の一貫化を図り、組織的対応力の向上を図る。	「なりひライオンルーム」の機能充実、「リフレッシュルーム」の新規開設、見守り体制の確立を通して、登校しているが学級には入れない児童の支援体制を強化する。	4 教員アンケート「見守り体制の効果」90%以上肯定	4	4 学級不適応ゼロ	2	「なりひライオンルーム」による学級不適応児童の見守りには効果があるが、一方で見守り体制を教員で授業をもたない教員で構築しなければならず、人材の確保が急務である。	「なりひライオンルーム」から区の教育支援センター等につなげるなど関係機関との連携の強化を図る。個の不適応の背景を把握するためにスクールカウンセラー、SSWと協働する。	A	A	不適応児童、よく聞き出してほしい。必要なことなのでよいと思う。	
	3 教員アンケート「見守り体制の効果」85%以上肯定	3 現状と変化無し										
	2 教員アンケート「見守り体制の効果」80%以上肯定	2 学級不適応の微増										
	1 教員アンケート「見守り体制の効果」80%以上未満	1 学級不適応の増加										
	生活指導等	特別支援教育コーディネーターを複数配置して速やかな実態把握、支援の方向性、組織的対応のあり方を明確に学校全体で共有する。	児童カルテを活用して、児童の状態像や行った支援、対応するときの留意点を記録し全体で共有する。	4 教員アンケート「カルテの効果」90%以上肯定	4	4 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答85%	3	カルテについては、個の変容や様々な状態像の背景を知る手掛かりであると教員は実感している。 5年：84.5%→85.3% 6年：88.5%→84.3%年度初めと年度末で概ね横ばい。	カルテに記録を残すことを徹底する。気になる児童の情報共有を第一段階とする。「楽しい」と感じるために学校生活の充実、特に特別活動を重点化する。	A	B	情報の共有、引き継ぎをしっかりとしてほしい。
		3 教員アンケート「カルテの効果」85%以上肯定	3 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答80%									
		2 教員アンケート「カルテの効果」80%以上肯定	2 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答変化無し									
		1 教員アンケート「カルテの効果」80%以上肯定	1 高学年児童アンケート「学校が楽しい」肯定的回答減少									
	生活指導等	「業平小ルール」の徹底を図り、全教職員でブレのない一貫した指導をめざす。	きまりを守ることの意義を考えさせたり、週の生活目標について、適時意識させたりしながら、児童自らが望ましい学校生活習慣の定着をめざすことができるように指導する。	4 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」100%	1	4 児童アンケート「きまりを守る」95%以上	1	朝の挨拶、遊び方のルールの徹底が課題。看護当番の教員による登校指導や休み時間の見守りの徹底。 5年：92.2%→88.8% 6年：93.1%→92.1%年間を通してきまりの徹底。	登校指導や休み時間の見守りなど当番の教員ができない場合は、必ず他の教員と交代し、見守りを徹底する。適宜、「看護当番のきまり」を確認し教員の指導体制を確実にする。	B	B	他からの評価が大切。「業平小ルール」が徹底できるとよい。朝の旗振りでも挨拶できていない。アンケートだけでなく実際を見て評価するのはよい。
		3 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」95%	3 児童アンケート「きまりを守る」90%以上									
2 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」90%		2 児童アンケート「きまりを守る」85%以上										
1 教員アンケート「業平ルールの徹底を図る」90%未満		1 児童アンケート「きまりを守る」85%未満										

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価								
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等						
学校の管理運営	安心・安全な教育活動を行うことができる教育環境・設備等を整える	遊び方のルールを徹底させるとともに安全指導を通して、危険予測、危険回避の資質・能力を育む。	4	教員アンケート「安全指導の徹底」100%	3	4	高学年けがによる保健室来室昨年度比50%以上減少	3	高学年けがによる来室児童301名(2/6時点)昨年度比74.8%で約25%削減できた。週の目標で意識喚起できただけではなく、担任の声かけによると考える。一方、見守りを一層徹底する。	毎月、決めた曜日に実施するなど教員一人一人が「安全指導日」であることの意識の向上を図る。休み時間の見守りの徹底とともにけがの情報を関係教員と共有する。	A	A	子供はけがをするが大事なければよい。担任はしっかりと児童の状況を把握してほしい。				
			3	教員アンケート「安全指導の徹底」95%以上		3	高学年けがによる保健室来室昨年度比30%以上減少										
			2	教員アンケート「安全指導の徹底」90%以上		2	昨年度比と変化無し										
			1	教員アンケート「安全指導の徹底」90%未満		1	来室状況増加										
			安全点検の徹底を図り、児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整備・構築する。	4	月1回を超える点検、即時修繕	3	4	保護者アンケート「事故防止、安全指導」90%以上			3	保護者アンケート86%が肯定的回答。校庭の補修、体育館の雨漏りなど施設の整備、改修が必要である。月1回の安全点検は確実に実施できている。		安全点検の結果を速やかに主事に伝え、軽微な整備については迅速に対応できるよう職員室と主事室の連携強化を図る。施設の修繕については、引き続き教育委員会に要望する。	A	A	施設の整備には引き続き気を遣うこと。施設は即、修繕すべき。安全安心が基本。
				3	月1回の確実な安全点検と修繕の実施		3	保護者アンケート「事故防止、安全指導」85%以上									
				2	状況の成果目標が達成できなかった場合は、「1」と評価する。		2	保護者アンケート「事故防止、安全指導」80%以上									
				1			1	保護者アンケート「事故防止、安全指導」80%未満									
家庭・地域連携	学校が果たすべき責任の明確化と保護者、地域がそれぞれの役割を意識しながら、協働的に子供を育む体制を構築する。学校教育への関心を高め、進んで支援、協力できるような情報発信を充実させる。	PTA主催によるおまつりや防災教室、体力作り等の取り組みについて、学校学校教職員も協働して、取り組みの充実を図る。	4	教職員が主体的にPTA行事に参加	4	4	保護者アンケート「行事で生き生き」95%以上	3	保護者アンケート「学校行事」92%肯定的評価。同「学校生活は楽しい」94%が肯定的評価。一方で「もう少し」の回答がそれぞれ約6%おり、個々の背景や理由を把握する必要がある。	行事等のアンケートの結果をできる限り早く教員間で共有し、保護者の意見を把握する。合わせて、アンケート項目に「児童の姿」を書き込めるようにし、実態の把握を徹底する。	A	B	94%の子供が楽しいと感じるのは素晴らしい。児童、保護者のアンケート結果を保護者に伝えると様子が分かりやすい。自由記述を増やし実態を把握する取組はよい。保護者のルール遵守				
			3	上記以外の場合は、評価を「1」とする。		3	保護者アンケート「行事で生き生き」90%以上										
			2			2	保護者アンケート「行事で生き生き」85%以上										
			1			1	保護者アンケート「行事で生き生き」85%未満										

○令和6年度 学校経営報告のまとめ(総括)

今年度における本校の取組について、肯定的に捉え、ご支援いただいていることに感謝している。一方で考えを伝える力、挨拶やルールなど課題を共有し、解決していくことが次年度への経営の重点となった。本学校評価を踏まえつつ、次年度より、学校経営ビジョンを一新し、令和9年に予定している開校110周年に向けて、自分を愛し、他者を愛し、学校を愛し、地域を愛する業平の子の育成をめざしていく。